

ニホンジカ保護管理に関する課題について（案）

平成 19 年度以降に行った評価委員会、部会及びワーキンググループでの意見を表 1 に整理するとともに、大台ヶ原自然再生推進計画の見直しに伴い検討が必要な事項について取りまとめた。

1. 個体数調整の現状

大台ヶ原ニホンジカ保護管理計画（第 2 期）において、早期（2～3 年）に目標生息密度 10 頭/km² に低減することを目指し、年間の目標捕獲頭数を平成 19 年度は 70～95 頭、平成 20 年は 95 頭に設定して個体数調整を行った。

目標捕獲頭数達成のため、平成 19 年度より装薬銃による捕獲を導入したほか、平成 20 年度からはシカが大台ヶ原に集中すると考えられる夏期に、麻酔銃による捕獲を集中して行う措置をとっているが、平成 19 年度の捕獲頭数は 33 頭にとどまり、平成 20 年度は 17 頭（10 月 3 日現在）となっており、捕獲効率は向上していない。

一方で、平成 19 年度の糞粒法による生息密度調査の結果は、東大台で 57.0 頭/km²、西大台で 14.7 頭/km²であり、東大台では平成 14 年度以降最低、西大台でも 2 番目に低い値であった。

2. 課題

（1）捕獲方法

平成 19 年度より装薬銃による捕獲を導入したほか、平成 20 年度からはシカが集中すると見られる夏期に、麻酔銃による捕獲を集中して行う措置をとっているが、捕獲効率の向上はできていない。

また、新規捕獲手法の開発のためにドロップネット等による捕獲等を試みているが、捕獲には至っていない。

（検討が必要な事項）

- ・既存手法の捕獲効率の向上
- ・新規捕獲手法（くくりわな、囲い柵、ドロップネット等）の検討
- ・効果的な誘引手法の開発

（2）モニタリングについて

大台ヶ原ニホンジカ保護管理計画（第 2 期）に基づき、植生状況調査や生息状況調査を行い、ニホンジカによる植生への影響やニホンジカの生息状況について毎年モニタリングを実施。しかしながら、シカの移動経路等の情報が不足している。

(検討が必要な事項)

- ・ 防鹿柵設置によるシカの行動の変化の把握
- ・ 平成 19 年度以降の個体数調整が生息密度に与えた影響の検証
- ・ シカの生息密度と植生の変化の関係の把握 (長期的課題)
- ・ 西大台の個体の食性の把握 (長期的課題)
- ・ シカの生息密度と植生に基づいた目標生息密度の検討 (長期的課題)
- ・ 最新の糞粒法による生息密度調査の結果に基づく目標捕獲頭数の設定 (シミュレーション) の検討。
- ・ GPS による行動域調査の結果に基づく、シカの季節移動経路の把握
- ・ 林野庁、関係自治体との連携による広域管理に関するあり方の検討